

平成 28 年度 第 2 回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日	時	平成 29 年 2 月 20 日 (月) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
会	場	総合福祉センター「ひまわり館」2 階 研修室
出	席	◎中川千恵美委員、○小西ひとみ委員
委	員	竹下秀子委員、田中裕喜委員、中村珠希委員、坪田吉史委員、 甲斐真由美委員、川橋袖子委員、榊原かず子委員、伊藤左登美委員、 河村加恵委員、杉本僚子委員、中西康子委員、川部長宣委員、 久家昌代委員、 (欠席) 中江栄理香委員、山下亜由美委員、真鍋崇委員、 福永利明委員、小林英代委員、安川千穂委員
		◎：会長等、○：副会長等
傍	聴	者 1 名
議	題	(1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗について (2) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて (3) 少子化対策の取り組みについて

決 定 事 項

認定こども園を整備するに当たり、担い手の質・量の確保、および地域や小学校との繋がりなど市の保育の継承を行うこと。

放課後児童クラブの整備の方向性を確認できるようにすること。

議 事 詳 細

1. 開会

2. 会長挨拶

(会議の開催にあたり会長より挨拶)

会長	子ども・子育て会議では、第一義的に待機児童への対応、それから、その地域で育つ全ての子どもたちへの支援ということを意図した計画を策定していて、その進捗管理をしている。2016 年は児童福祉法が改正され、市町村でも、要支援といわれる子どもたちの居場所、虐待予防という視点、それから、元々の全ての子どもたちへの支援が、今、求められている。改めて、皆さんが日々接している目の前の子どもたち、その家庭ということ視野に入れて、地域の第 3 者的な関わりという視点も意識して、限られた時間の中、さらに議論を深めていきたい。
----	--

本日の議事の中で会議を公開することに格別の支障となる事項はないように思うので、公開としたいと考えるが、委員の皆さんよろしいか。

(異議なし)

それでは、近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱第4条の規程に基づき、本会議は公開とすることを決定する。

3. 議事

(1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗について

(事務局より、子育てトータルサポート体制の構築に向けた進捗状況について説明)

(説明概要)

平成28年4月に設置した「子育て世代包括支援センター」と、中学校区子育て支援ネットワーク会議について、各取り組みを報告した。

委員 私は初めて知った。良い取り組みなので、もっと知らせる必要がある。必要とされている人が利用されていないのではないか。

委員 悩んでいる人は自分からなかなか行けない。悩んでいる人をキャッチして声をかけ繋いであげる仕組みが必要ではないか。

事務局 母子手帳を発行する時に、全妊婦に面談を行い、個々の状況を把握し、出産から子育て期に至るまで、最適な支援ができるよう実施しています。

委員 有益な情報が得られるサイトや、市の子育て支援のことが明瞭に分かるような配布物を作っておき、母子手帳発行の時に、詳しく説明されてはどうか。

委員 未就園児に対する取り組みもしている保育所・幼稚園が介在して、地域の子育て支援の情報を積極的に発信していくことが非常に大事である。

委員 妊娠している時より、産まれてからの子育てがすごく大変。子育てをどう支えていただけるのか、もっともっと考えて欲しい。

会長 気になる親子を、地域の方も発見キャッチしていく意識、複層的に切れ目なくキャッチできる対応、どうニーズを受け止めていけるのか、今後さらに一歩進んで、考えていく必要がある。

(事務局より、認定こども園整備計画等について説明)

(説明概要)

待機児童、岡山・桐原学区で進めている認定こども園整備、小規模保育事業の募集状況、老蘇こども園化、幼稚園預かり保育料改正等を説明した。

委員 今までの幼稚園・保育園の良さを受け継いでもらえるのか不安。

事務局 保育の部分については一定実績をお持ちで、信頼できます。

委員 老蘇は今まで小規模園で充実していた。こども園になる際、先生の負担も大きくなるので人員を確保してもらえると、働く方も利用する方も、安心して過ごせると思う。特に3歳児には配慮を望む。

事務局 初めての集団生活の中で、安全に安心して過ごしていただける環境をどのように作るかという中で、総合的に人員の配置は考えていきます。

委員 桐原小学校区、桐原東小学校区で、220名ずつ増えるとあるが、これで待機児童がゼロになる可能性はあるのか。

事務局 桐原、桐原東、岡山の長時部で250名の定員枠を増やすことになりますので、一定、解消できるのではないかと考えています。

委員 同じ時期に大きな園が3つできるが、保育士の確保が危惧される。

委員 現在の幼稚園では就学前の教育、小学校との連携に力を入れていた。子どもたちの期待を膨らますような指導は是非受け継いで欲しい。

会長 担い手の方の質・量の確保、市の保育の継承、地域の繋がり、選定委員会の付帯意見はしっかりと点検して徹底して進めて欲しい。認定こども園が、地域の子育て支援の場となっていくことのモデルにもなって欲しい。

(事務局より、放課後児童クラブの整備計画について説明)

(説明概要)

放課後児童クラブ利用者数の推移、平成29年度には3か所増設、さらに30年度には民間事業者の参入による増設予定を説明した。

委員	3か所とは、具体的にはどこの地域で増やすのか。
事務局	民間の活力を導入して、平成30年度に開設をさせていただく予定をしています。金田、桐原東、安土小学校区にて増設を見込んでいます。
会長	放課後児童クラブの皆さん、利用する保護者の皆さんに、いつ、どこのエリアで、どれだけ、どういう方法で整備するということを、一定明示していただき、きちんと確認できるようにしていただきたい。

(事務局より、児童虐待防止対策、子ども発達支援センターの状況などについて説明)

	(説明概要) 児童虐待関連の相談実績、保育所等訪問支援事業の状況、ショートステイ事業の開始について、報告した。
委員	保育所等訪問支援事業は、すごく良い取り組みである。現状では小学校への訪問支援は厳しいと思うが、支援員さんを増やしていく予定か。
事務局	臨床心理士の方を嘱託職員にて募集しても、なかなか応募がないのが実情です。体制を整えればできるのですが、限られた人員の中でその必要度に合わせて支援に行っています。発達支援ファイルを、きちんと小学校まで繋がせていただいているので、教育委員会と相談しながら、支援できる体制を作れるように努力させていただきます。
委員	評価の高さを鑑みると、何故、正規職員を確保できないのか非常に不思議。非常勤、嘱託職員の雇用条件も余りにもひどい。現場が疲弊していかないよう、しっかりとした方向性を次回の会議では打ち出していきたい。
委員	自分も保育士経験があり、先輩ママでもあり、療育に通う違うお子さんへのフォローができるので戦力になると思う。働く時間が短時間でも良い形態を取り入れてもらえると、潜在的な保育士の中から、なりたい方が増えるのではないか。
委員	指導員の資質を向上させる研修もすごく勉強になるが、現場にて対象児に合わせた言葉がけなどのアドバイスがもらえると、本当に助かる。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

(事務局より、市民意見交換会について報告)

委員	(説明概要) 中間見直しを前に開催した市民意見交換会について、参加者から出た意見・本市の評価、来年度に向けた評価等を報告した。
	外で遊んだり、過ごしたりしにくくなった。外遊びができるような環境をもっと考えて欲しい。

(3) 少子化対策の取り組みについて

(事務局より、少子化対策の取り組みについて報告)

	(説明概要) 広報2月号にて掲載した、ライフデザイン研修等の少子化対策の取り組みについて報告した。
--	--

4. 閉会

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

副会長	みんなが昔のように地域で、住民が地域の場をもっとしっかりとしていくことが、子ども・子育てを支えていく場合にも大事だと思う。待機児童対策、学童など施設がたくさんできるのは本当に良いことだが、やっぱりその中身がとっても大事なので、しっかりと見守っていただきたい。
-----	---

閉会